

## Plain living and high thinking

田 村 光 三

「思想は高潔に、生活は簡素に」というこのワーズワースの言葉が、八王子にある「大学セミナーハウス」（飯田宗一郎氏の提唱によって1962年秋に創立された大学生の共同研究生活施設）のモットーであることを知ってから、はや20年ほどにもなるであろうか。その食堂の一角には、新渡戸稲造によるこの句の毛筆の額が掲げられている。そのお弟子の一人である斎藤勇先生のご説明によると、この句はワーズワースが1802年の秋に親友コウルリジにあてた十四行詩にあり「当時ロンドン人の生活は華美浮薄で、自然界や書物のなかに見られる壮大なるものに対する関心がなく、全く物欲に駆られているので、素樸な生活も高遠な思想もなくなり、また質素な暮らし方も気高い考え方もなくなり、昔ながらのなつかしい主張の地味な美しさも見られなくなったと痛歎した時の言葉」（1967年7月10日）とのことである。

当時のイギリス社会は、いわゆる「産業革命」の奔流の只中にあった。矢つぎ早やにあらわれる技術革新とそれによって産出される老大な物財に、当時の著名な企業家でも「目がくらむ程だ」と嘆いている。

現代、われわれをとり巻く経済的環境世界は、産業革命期の人たちが困惑した物質文明以上に激甚なるものがある。豊富、過剰、浪費、掠奪、そして、徹底した自己中心主義。この中で、あの天然詩人とともに、「簡素な生活」だとか「高潔な思想」とかいっても、誰も耳をかすものがないであらうか。その上 ‘by the soul only, the nations shall be great and free’ などといったら、もはや相手にされなくなるかもしれない。